希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100−8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿をお待ちしています。被災者の今困っていることも募集します。投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

東日本大震災 サポート情報

27日現在

医療

医療費免除に7月から証明書が必要 自宅が全半壊したり、主に生計を担う家族が死亡した被災者は、医療費の一部負担金が免除されている。これまでは口頭の申告で免除されたが、7月1日以降は、加入する医療保険の「免除証明書」提示が原則、必要になる。免除期間は来年2月29日まで。

ただし、以下の市町村の国保や後期高齢者医療制度は、「免除証明書」が必要となる時期を遅らせる。8月1日から必要＝岩手県宮古、大船渡、陸前高田市、大槌、山田町、福島県田村、南相馬市▽9月1日から必要＝宮城県南三陸町▽10月1日から必要＝宮城県女川町▽免除期間終了まで証明書不要＝福島県広野、楢葉、富岡、大熊、双葉、浪江町、川内、葛尾、飯舘村

小児アレルギー電話相談 日本小児アレルギー学会は、被災者を対象に電話相談窓口（☎090・7031・9581）を開設している。月～金曜の11～14時。相談内容を事務局員が聞き取りした後、担当の相談医が折り返しで電話し、相談に応じる。メール（sup_jasp@gifu-u.ac.jp）でも相談でき、氏名や年齢、性別、住所を記入する。

給付・貸付

災害弔慰金・障害見舞金 各市町村は災害弔慰金支給法に基づき、災害弔慰金や災害障害見舞金を支給している。災害弔慰金の対象は、震災で死亡したり行方不明となった人の配偶者や子、父母、孫、祖父母。死亡したのが世帯主の場合は500万円、その他の場合は250万円が支給される。

災害障害見舞金の対象は、震災で両目の失明や両腕切断、常時介護を必要とするなど重度の障害を負った人。世帯主は250万円、その他は125万円。

児童生徒の死亡に特別弔慰金 独立行政法人「日本スポーツ振興センター」（本部・東京都新宿区）は災害共済給付制度の一環として、学校の授業中や登下校中に被災し死亡した児童生徒の遺族に対し、1人当たり500万円の特別弔慰金を支給する。7月1日から、教育委員会などの申請を受け付ける。

対象は、災害共済給付に加入していた小中高生、高等専門学校生、幼稚園・保育所の園児ら。被災時に授業中や登下校中など学校の管理下にあったことが条件。各校を管轄する教育委員会や学校法人から申請を受け、同センターが個別に審査して支給を決める。問い合わせは、同センター仙台支所業務推進課☎022・716・2106。

大学生協連の見舞金 全国大学生協連は、震災で親を亡くしたり、自宅や実家が全壊した大学生・院生に、1人3万円の見舞金を贈っている。同生協連加盟の大学に通う学生が対象で、①学費や生活費の大半を負担していた親や保護者が震災で死亡または行方不明②両親や保護者の住む家が全壊――のいずれかに該当する人。社会人として収入がある人を除く。

所定の「見舞金申請書」、死亡証明書、罹災（りさい）証明書などを各大学生協の窓口に提出するか、同生協連の事務局に郵送する。問い合わせは、全国大学生協共済連サポートダイヤル☎0120・3335・770。

蚊取りグッズの支援を

被災者が求める物資や人的支援情報をお知らせします。必ず事前連絡をお願いします。

今後気温が高くなるにつれ、蚊の大発生が懸念されており、蚊取りグッズのニーズが高まっている。以下の物品の支援を。

蚊取り線香▽リキッド式蚊取り器（詰め替え用のみでなく、すぐに利用できるセットで）▽蚊帳（仮設住宅内で利用する）

生活を始める方の支援のため、米、みそ、洗剤、せっけんなどの生活用品（消耗品）を継続して求めている。再就職にあたり難しい問題に直面しているため、当面の生活必需品を必要としている。問い合わせは、NPO「花見山を守る会」高橋さん（☎024・5339・8908）。

生活用品（消耗品）求む 避難所から独立して

ニーズ情報

■遠野まごころネット（岩手県遠野市）☎0198・62・1001 tonomagokoro@gmail.com http://tonomagokoro.net/
蚊取りグッズを 陸前高田市長部地区の仮設住宅からのニーズ情報。

■ふくふくプロジェクト（福島市）☎024・520・4533 f-ssc@bz01.plala.or.jp http://www.f-npo.jp/

三陸沿岸事業者に エアコン無償提供

横浜の設備工事会社

設備工事会社「ヨコレイ」（本社・横浜市、有井清社長）は、震災被害の大きかった三陸沿岸部の事業者に、中古の業務用エアコン90台＝写真・ヨコレイ提供＝を無償で提供する。

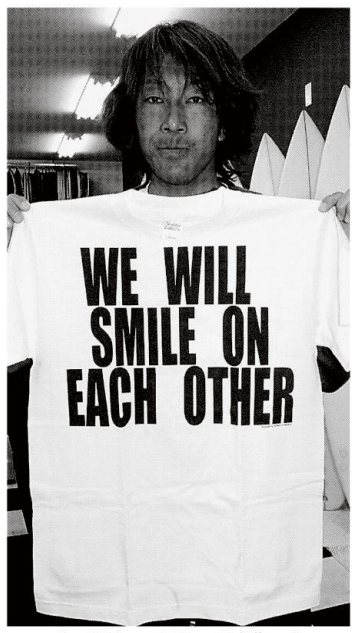
仮設の事務所や店舗で業務を再開する事業者が対象。エアコンは1998～2008年製で天井カセット型、天つり型、床置き型があり、約20平方メートル対応から125平方メートル対応までさまざま。送料は同社負担。取り付けは受け取り側が行い、同社に有料で依頼もできる。工事費は十数万～三十数万円（機種によって異なる）。三相200ボルトの電源に対応しており、電気工事が必要な場合もある。

有井さんは岩手県大船渡市にある北里大水産学部（現・海洋生命科学部）の卒業生。「三陸で過ごした3年間、地元の皆さんにとてもよくしてもらった。少しでも三陸の人たちの役に立ちたい」と話している。問い合わせはヨコレイ☎0120・374・501。【木村葉子】

九十九里浜 遊びに来て

千葉

旭市の矢指ケ浦海岸のサーフショップ店主、飯田和史さん(42)「店は津波を免れたものの、自宅は液状化で傾きました。でも、今は震災前より海を盛り上げたい気持ちでいっぱい。逆バネっていうのかな。仲間と作ったチャリティーTシャツのロゴは『WE WILL SMILE ON EACH OTHER（笑い合おう）』。400着の売り上げ24万円は義援金として寄付しました。九十九里浜の海の魅力は変わりない。遊びに来てください」【武田良敬】



チャリティーTシャツを作った飯田和史さん

3組に目黒雅叙園で結婚式

「『いい夫婦の日』をすすめる会」は、震災の影響で結婚式が中止・延期になったカップルに、総合結婚式場「目黒雅叙園」（東京都目黒区）のチャペルでの式をプレゼントすることを決め、27日から応募受け付けを始めた。対象は3組で、式は11月8日か同9日のいずれか。

同会はアパレル企業などの協賛を受け、毎年「11月22日」を夫婦が感謝や愛を伝え合う日にしようと活動している。

今回、カップルの衣装（洋装レンタル）▽1組につき計6人の往路交通費と前日の目黒雅叙園宿泊費▽結婚指輪▽記念写真――などをプレゼントする。披露宴は対象外。

申し込みの際に400字程度の「応募理由」を提出してもらい、対象カップルを選考する。締め切りは8月15日。

問い合わせは同会☎03・3547・5422。【丹野恒一】

労働・雇用

就職活動支援プログラムをネット配信 毎日コミュニケーションズ（マイコミ）は、岩手、宮城、福島、茨城県在住で2012年卒業予定の学生向けに、企業のセミナーなどをネットでライブ配信する。企業の人事担当者によるセミナー（会社説明・選考フローの案内）や、マイコミによる就職活動講座（面接対策・エントリーシート対策）などを予定。視聴のためのURLは、マイナビ（http://job.mynavi.jp/）から学生や協力大学に送付される。参加企業は、28日18～19時、サイプレス・ソリューションズ▽29日18～19時、NECネッツエスアイ▽30日18～19時、パソナグループ▽7月11日18～19時アフラック。

イベント

東京YWCA東日本大震災支援バザー 7月2日10時半～16時、東京都千代田区神田駿河台1の「東京YWCA会館カフマンホール」で。日用品や衣類をはじめ、福島県新地町の新鮮野菜や、岩手、宮城両県の障害者施設で作られたレトルトカレーや菓子が販売される。収益は「女性と子供の安全のため」をテーマに、日本YWCAの被災者支援活動などに使われる。同会館☎03・3293・5421。

復興市参加ツアー 7月2日に石巻市雄勝町で開かれる「第2回雄勝復興市」で、近畿日本ツーリストがツアー参加者を募集している。1日にJR東京駅前をバスで出発し、車中泊をして現地入り。同市立大須小の避難所で被災者やボランティアと交流した後、復興市で海産物の買い物やイベントを楽しむ。後片付けなどボランティアにも参加する。

20歳以上が対象で、参加費は1人2万円（5000円は義援金としてNPO活動費に充てる）。「雄勝石」のプレゼントもある。同社のツアー事務局☎0570・064・205。29日17時締め切り。

その他

■法律相談

〈岩手県〉
岩手弁護士会（☎019・651・5095）が巡回法律相談（無料）を実施。いずれも13～17時。
城山公園体育館（大槌町）＝月、木曜▽釜石消費生活センター（釜石市）＝月、木曜▽大船渡市役所＝火曜▽米崎中（陸前高田市）＝火曜▽宮古市役所＝水、金曜▽山田町役場＝水、金曜

〈宮城県〉
仙台弁護士会（☎022・223・2383）が無料の面談相談を実施。仙台弁護士会館（仙台市）平日10～15時▽古川法律相談センター（大崎市）火、土曜10～15時▽登米法律相談センター（登米市）水、金曜10～15時▽県南法律相談センター（大河原町）火、木曜10～15時▽三陸海岸法律相談センター（気仙沼市）水、金曜11～15時

また、法テラスや同弁護士会、自治体などが共同で無料法律相談を開いている。28日10～15時、松島町役場▽30日10～16時、ハローワーク仙台▽7月4日10時半～15時、南三陸町・ベイサイドアリーナ▽6日10～12時、大衡村・平林会館▽11日10時半～15時、南三陸町・平成の森

〈福島県〉
福島県弁護士会は7月1日から「震災・原発法律相談」の予約受け付けを開始。福島、二本松、郡山、白河、会津若松、いわき、相馬各市と猪苗代町の8会場で実施予定。無料。受け付けはフリーダイヤル☎0120・700・791（平日10～16時）。

気仙沼にエンジン到着

伝言板

▼エンジンついに到着 津波で船のエンジンを失った宮城県気仙沼市の千葉宏一さんに、希望新聞を通じて神奈川県大和市の西川孝則さんが提供を申し出ていたゴムボートのエンジンが25日、千葉さんに引き渡されました。宅配便では送れず、希望新聞を通じて運搬を申し出た横浜市の村嶋一誠さんが、友人の梅木迅さんと、9時間がかりで2トントラックで運びました。運搬したのは、西川さん提供の8馬力と2馬力のエンジン二つとゴムボート本体、村嶋さん提供の発電機の計4点です。

千葉さんの住む鮪立（しびたち）地区は、5人が死亡、3人が行方不明です。

お盆には毎年、港にろうそくの灯を並べて先祖供養をしていますが、港周辺はまだ電気が復旧していません。発電機はお盆の供養の際、電灯用として自治会が使いたいそうです。

無事に運べて3人とも「ほっとしました」と語り、千葉さんは「涙が出るくらいうれしかった。神奈川に思いがけなく友達ができました」と話しました。

▼毛糸、洋裁用布送ります 札幌市の木村則子さん(56)が、毛糸と洋裁用の布を送ります。毛糸は20年ほど前に購入した未使用のもので、ミカン箱4箱分あります。主に綿ですが、ウールなど素材、色、長さはさまざまです。スカートやワンピースを1着縫える長さの布もあります。ブラウスや袋物などの小物は作れます。編み棒、編み針も約20本あります。「手仕事が好きな方に、気を紛らわすのに使っていただきたい」と話しています。送料は木村さんが負担。希望者は氏名、住所、連絡先を書いて、メール（norikok.sep.26-mu@ezweb.ne.jp）に連絡をください。

宮城

石巻市のJR石巻駅前の朝市で水産加工品を販売する阿部すが子さん(64)「女川町の自宅と加工場、店舗は津波ですべて流されました。朝市が今月から再開されたので、高台の物置に保管してあったワカメやコウナゴなどを売っています。加工場や店舗があった場所には建築制限がかかっていて、商売を本格的に再開できません。再開が遅れると取引先にも迷惑を掛けてしまうので早く解除してほしいです。若者が漁業から離れるのも心配です」【松本晃】

朝市でワカメなどの水産加工品を販売する阿部すが子さん

被災者から声

■被災地へボランティアに行くには■

各地の災害ボランティアセンター（VC）が被災地で活動するボランティアを募っている。電話で問い合わせる前に各サイトで情報の確認を。また、被災地に赴く前に居住地の社会福祉協議会でボランティア活動保険に加入することが望ましい。主なVC窓口は次の通り。

<岩手県>
県VCや各社協が内陸部に拠点を設け、沿岸部の被災地に送迎バスを出している。

◆県VC ☎019・637・7594 サイトでは個人参加できるボランティアバスの運行状況や各VCの募集情報を公開中

◆遠野市VC「遠野まごころネット」 ☎0198・62・1001 遠野市総合福祉センター発着便で沿岸部の被災地に毎日ボランティアを派遣。登録も随時受け付け。要事前申し込み。寝袋持参で体育館宿泊可

◆宮古市VC ☎090・4478・3984 個人、団体とも1週間前までに電話連絡を

◆陸前高田市VC ☎090・2852・9736 できるだけ2人以上で参加し、3日前までに連絡

◆大槌町社協VC ☎080・3518・8490 5人以上の団体で要事前登録。個人参加は県VCの盛岡発ボランティアバスを利用する

<宮城県>
各VCが県外からの個人ボランティアも受け付けている。詳細は各VCのサイトで。

◆仙台市VC ☎022・231・1326 5人以上での参加は先着50人まで、要事前申し込み

◆石巻市VC ☎0225・23・6015 10人以上の団体は要事前連絡

◆気仙沼市VC ☎080・5949・7475 10人以上の団体は3日前までに事前連絡

◆名取市VC ☎022・784・3029 団体は要事前問い合わせ

◆多賀城市VC ☎080・5949・7501

◆岩沼市VC ☎080・5949・7541 8人以上の団体は要事前申し込み

◆東松島市VC ☎0225・82・9812 車中泊スペースあり。土のう袋をなるべく持参。5人以上のグループは早めに事前申し込みを

◆亘理町VC ☎080・5949・7719 団体は要事前申し込み

◆山元町VC ☎080・5949・7720 要事前申し込み

◆七ケ浜町VC ☎090・6853・4490 団体は要事前申し込み

◆南三陸町VC ☎080・2055・1066 県内外問わず団体も受け入れ中

<福島県>
◆県VC ☎024・522・6540

◆相馬市VC ☎0244・36・7827

◆南相馬市VC ☎0244・24・1877 公式ホームページで活動内容や注意事項の確認を

◆新地町VC ☎0244・62・5577 要電話確認。毎週木曜は活動休止日。テント泊、車中泊は禁止

◆いわき市VC ☎0246・22・5501 団体は要事前申し込み

◆電◆話◆帳◆

●行方不明者・震災関連相談ダイヤル
岩手県警 0120・801・471
宮城県警 022・221・2000
福島県警 024・522・2151（内線3024）

●医療
文部科学省健康相談ホットライン・放射線関連 0120・755・199（9～18時）
放射線医学総合研究所相談窓口 043・290・4003（9～17時）

●生活支援
日弁連電話相談0120・366・556（平日10～15時）
岩手弁護士会 0120・755・745（月～土曜13～16時）
仙台弁護士会0120・216・151（平日10～19時）
福島県弁護士会024・534・1211（平日14～16時）
あしなが育英会 被災者専用 0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
チャイルドライン 0120・99・7777（月～土16～21時、18歳までの子ども向け）
震災関連の悪質商法110番 0120・214・888（10～16時）

●省庁 ※平日のみ
公営住宅等情報センター 0120・297・722（9～18時。全国の公営住宅などを紹介）
住宅の補修・再建（国交省） 0120・330・712（月～土）
行政相談（東北管区行政評価局） 0120・511・556
金融相談（東北財務局） 022・721・7078
中小企業相談（経産省） 0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省） 0120・355・567
年金の相談（日本年金機構）0120・707・118※

●金融・保険 ※平日のみ
預金口座照会センター（全国銀行協会） 0120・751・557※
災害地域生保契約照会センター（生保協会） 0120・001・731※
そんがいほけん相談室（日本損保協会） 0120・107・808※
携帯・PHSからは03・3255・1306※

●移転した役所
<岩手県>
陸前高田市 高田町鳴石 0192・54・2111
釜石市 シープラザ釜石 0193・22・8253
大槌町 大槌小学校 0193・42・2111
<宮城県>
女川町 女川第二小学校 0225・54・3131
南三陸町 町総合体育館ベイサイドアリーナ南側テニスコートの仮庁舎 0226・46・2600
<福島県>
広野町 FDKモジュールシステムテクノロジーいわき工場 0246・43・1331
楢葉町 会津美里町本郷庁舎0242・56・2155
富岡町 郡山・ビッグパレット 0120・336・466
川内村 郡山・ビッグパレット 0120・38・2119
大熊町 会津若松市追手町第2庁舎0242・26・3844
双葉町 旧埼玉県立騎西高校0480・73・6880
浪江町 県男女共生センター（二本松市）コールセンター 03・5638・5055
飯舘村 福島市飯野支所内024・562・4200
葛尾村 旧法務局会津坂下出張所 0242・83・0271

★一時立ち入り受付センター0120・208・066 警戒区域9市町村への一時立ち入りを申し込める。8～20時

三陸物語 Sanriku Monogatari

視覚障害の兄妹 中村亮さん 三三子さん ❶

避難の数十秒後に津波

鍼灸（しんきゅう）師の中村亮さん(57)と妹の三三子（みみこ）さん(55)。全盲と弱視の兄妹が2人で住んでいた岩手県釜石市の治療院兼自宅も、津波に襲われた。

◇

中村治療院に津波が達した瞬間を隣の写真館の菊地信平さん(63)が撮影していた＝写真・菊地さん提供。3月11日午後3時22分のことだ。写っている男性は直後に津波に巻き込まれ、建物の内部に押し込まれたが、神棚につかまって天井とのわずかのすき間で息を継いで生還。女性は治療院の外階段を駆け上がって、一命を取り留めた。

36分前の地震発生時。亮さんは1階の治療院でパソコンをいじっていた。ストーブにかけたやかんを右手で持ち上げ、左手で柱につかまって踏ん張ったことを記憶する。パソコンが倒れ、ビンが流しに落ちるのは音で分かった。

一方、三三子さんは歩いて10分のスーパーで買い物中に地震に遭い、家に急いだ。普段は信号の音を聞いて交差点を渡っていたが、この時は停電で音がしなかった。

揺れが収まり、中村さんが居住スペースの2階に上がると、家具はすっかり位置を変えていた。

上着を着て1階に下りたところに、三三子さんが帰宅。「逃げよう」と告げて携帯ラジオを取りに2階に戻り、スイッチを入れると現場中継が飛び込んできた。「津波が今、釜石港の防潮堤を越え、車をのみ込みました」。治療院は港から600メートル。血の気が引いた。

白杖（はくじょう）をついて路地に出たら、隣組の女性2人の声がした。「待ってたの、一緒に逃げっぺ」。一人が荷物を持ち、もう一人が中村さんに腕を貸し中村さんが三三子さんの手を引いた。

写真はその数十秒後に撮影された。長きにわたる「見えない避難生活」の始まりを切り取った一枚である。【萩尾信也】

◇

「三陸物語」は火～土曜日に掲載します。